

いわちゃん ポスト

千葉県議会議員

岩井 やすのり



印旛郡栄町安食台 2-26-23-202 TEL 0476-36-7799 fax 0476-36-7802

HP <http://www.iwai-y.jp> mail mail@iwai-y.jp

カワウ被害に住民が悲鳴

印西・北総花の丘公園

県立北総花の丘公園内にある戸神調整池に生息するカワウ。近年は個体数が増え続け、周辺住宅街での糞や鳴き声による生活被害が深刻な状況です。

●戸神調整池に県内個体数の3割が生息

カワウとは、翼長が数十センチにもなる大型の鳥類。一時期は個体数が激減し、一般保護生物に指定されていたほどでしたが、1990年代後半より全国的に増加傾向に転じています。

以前より、千葉ニュータウン中央駅からほど近い県立北総花の丘公園にてカワウの生息が確認されてきましたが、近年は特に増加傾向にあります。2012年に確認された1888羽は、県内で6千〜7千羽といわれる個体数の3割にも相当。また、以前はカワウがねぐらとしてのみ利用していたものの、2010年春からは公園内での営

巣も確認されるようになっており、現在は相当数に上っていると見られます。

●近隣自治会ではカワウ対策委員会も設置

問題となっているのは、糞などによる生活被害です。

カワウの糞には多量のリン酸が含まれているため、公園内の樹木の多くが枯死し、時期によっては辺り一面が真っ白となってしまふほど。糞は生臭いような独特の悪臭を放ち、水質や土壌、景観の悪化を招いているのです。また、「グワワワ」「ゲレレレ」という鳴き声騒音も深刻で、住民からはその音を耳にするだけで陰うつな気分になるとの声も上がります。戸神調整池に隣接する地区の自治会ではカワウ被害対策の委員会を設け、例年、対策予算を計上しており、近隣住民にとってどれだけ切実な問題であるのかがわかります。

●カワウ対策にドローンなど新技術の活用を

しかし、カワウの被害対策を行うのは容易ではありません。河川敷やダム周辺などに生息するカワウが漁業被害をもたらし、捕獲の対象となることがある一方、糞等の生活被害を理由とした捕獲が許可されることはなく、「追い払い」を行うしか手立てがないのです。

現在、県が行っている追い払い対策は、営巣を防ぐための木の伐採（80万円/年）と獣害防除用の「リンロンテープ」の設置（



糞被害で真っ白となった樹木

戸神調整池のカワウ生息数

	2006年	2008年	2010年	2012年
生息数	1,716	736	1,072	1,888
営巣数	-	-	23	46

千葉県カワウ生息状況等調査結果による



印西市内にある県立花の丘公園では、カワウが増えて問題になっていると聞きました。



そうなんだ。公園内には、県内総個体数の3割に相当する2千羽近くが生息している。隣接する住宅街では糞による悪臭や水質、景観の悪化に悲鳴の声が上がっているんだ。



高所に営巣するカワウに対して、県は追い払い対策を行っているんだけど、予算の少なさが技術的な問題からなかなか成果が上がっていないんだ。



地元自治会とともに、ドローンを活用した追い払い等、新たな対策の実施を求めています。

自民党に入党 地域の声を県政のど真ん中へ

日頃よりご支援いただいている方々、「いわちゃんポスト」をご覧いただいている皆様に、自民党に入党したことについてご報告いたします。

●県議としての職責を果たしていきたい

自民党への入党が決定したのはこの4月末のことです。その後、初めて自民党会派に合流したのは、ゴールデンウィーク明けの5/8でしたが、早速「児童虐待防止対策PT（プロジェクトチーム）」に出席することとなりました。



調査のため訪れた市川児童相談所

これは野田市で発生した児童虐待死事件を契機に、自民党と県担当課が児童虐待防止対策について協議する会合。県は5月中旬に「一時保護所の増設」「里親・児童養護施設の整備」「担当職員増員の前倒し」等の緊急対策を発表しましたが、実はいずれもこのPTで自民党側が求めている対策です。

これまで無所属の立場で「1人で」活動してきた際には、こういった県の重要施策の設計に参画することはできませんでした。いや、そもそも会合の存在すら知りえなかったというのが実情です。

私が自民党入りを願った理由はただ一つ、県議会議員としてその職責を果たせるようになることです。住民目線の行政が実現されるよう県執行部と議論を交わすこと、県内に広がる人的ネットワークを活用し、「消防広域化（消防本部の合併）」のような自治体の枠を超えた課題の解決に参画することで、有権者からの負託に応えたいと思います。

●自らの政治姿勢、信条に変わりなし

一方で、自身の県議会議員としての姿勢には変わりはありません。毎月の「いわちゃんポスト」の発行と朝の駅頭活動が続けながら、自らの政治信条である「弱い立場にある方々に寄り添った政治の実現」のため、引き続き汗を流してまいります。

栄町、印西市をはじめとする地域の声を県政のど真ん中へしっかりと送り届けますので、身近に問題がありましたらどうぞお気軽にご連絡ください。

50万円/年）。しかし、前者の予算で伐採できるのは年数本程度と極めて少なく、後者についても技術的な問題から調整池の水辺の低い箇所には張っているというのが現状で、木の枝の高い位置に営巣するカワウにはほとんど効果がありません。

県に求めているのは、カワウ追い払い技術の研究と抜本対策のため予算拡充。ドローンを活用した高所へのリンロンテープの設置や可搬ポンプ等を使った放水による巣落とし等、有効な追い払い技術の確立が必要です。また、予算が限られる年度内は秋の巣作り前の追い払いに注力する一方、来年度に徹底対策を行うための数千万円規模の予算確保が求められます。こうした点について、地元自治会とともに働きかけを強めているところです。

鎌ヶ谷本埜線バイパスの開通、3年上旬に延期

千葉ニュータウン地区から栄町、成田、茨城方面へのアクセス向上が期待される県道鎌ヶ谷本埜線バイパス事業。印西市萩原地先から栄町安食までの約4.5kmの区間について、2020年春の開通が予定されていましたが、県はこれを「2021年上旬」へと修正し、1年余り開通時期が遅れることを明らかにしました。



●架橋箇所の軟弱地盤により1年余りの延期

県は道路予定地の確保ができたところから盛土工事等を進める一方、老朽化が進む豊年橋の架け換え工事も実施。今年度は最終段階となる橋梁上部工に入る見込みとなりました。

問題となったのは旧長門川橋の架橋工事。架橋とはいえ、実際は「ボックスカルバート」と呼ばれるコンクリート状の箱を設置する工事になるわけですが、その設置箇所の地盤が想定以上に軟弱であったため、地盤改良工事に1年程度の期間が必要となったものです。同バイパス事業の完成は地元地域からの期待が特に大きく、改めて一刻も早い開通を求めています。



30年度政務活動費報告

項目	支出(円)	内容
調査研究費	125,142	調査活動に関わるガソリン代、高速道路料金 ※視察費の計上はなし
資料購入費	137,964	政務に関わると認められる書籍購入費など
広報費	2,067,909	HP関連費用、いわちゃんポスト作成費、いわちゃんポスト配布費用
事務所費	878,800	事務所家賃、事務所水道光熱費、事務所暖房用灯油代など
事務費	414,784	コピー機リース代、事務所電話代、駐車場代、文書郵送代など
人件費	575,255	政務活動補助のための事務所職員人件費
合計	4,199,854	

●広報費に206万円、視察費の計上はゼロ

岩井の平成30年度の政務活動費使用額のうち、人件費の約57万円は主に事務所職員給与に充てたものであり、事務所費約87万円は、事務所家賃(6.4万円×12=76.8万円)に水道光熱費を加えたものです。また、事務費の約41万円は駐車場代や電話代などとなっています。

岩井の政務活動費の使途として特徴的なのは、県政報告書の作成に関わる広報費の占める割合が大きい一方、視察費の計上がないことです。

広報費に関しては、「いわちゃんポスト」を手作りで作成する等してコスト削減を図っていますが、年15回、計45万枚分の発行で206万円余りと項目別で最多となっています。また、一般に議員の自己負担がないことから支出が多くなりがちな視察費(視察宿泊費)ですが、岩井はこの支出がなく、聞き取りなどの必要から現場を訪れた際には、現地までのガソリン代、高速料金のみ計上しています。

なお、自身の政務活動に政務活動費の限度額である420万円を超えて支出しており、超過した分の費用は自己負担しています。そのため、限度額ギリギリの419万円余りの計上となっています。

長門川下流 4.3 ㎞ 護岸整備と自転車道の課題

土がむき出し状態で、河岸の浸食が問題となっている長門川。昨春、その護岸改修が事業化されましたが、整備が中断されたままの沿川サイクリング道(自転車道)の設置も大きな課題です。

●長門川の河川整備 台風26号がきっかけ

長門川の護岸整備が強く求められるようになったのは、平成25年10月の台風26号がきっかけです。

同台風では増水した印旛沼水を新川へ放水しましたが、八千代市内にて376棟もの床上・床下浸水被害を招く結果に。印旛沼増水時の新川への放水のあり方が問われることとなりました。一方、新川とともに印旛沼水の放流河川に位置付けられる長門川は、コンクリート護岸整備はおろか木柵による補強もほとんど行われておらず、とても印旛沼水の大放流に耐えられる状況にありません。そこで、印旛沼水の緊急放水を長門川にも行えるようにと、同河川の護岸整



土がむきだしの長門川

備の必要性が注目されることとなったわけです。そのような中で昨春より事業化となった長門川の護岸整備。長門川の下流域に位置するふじみ橋～酒直水門の約4.3キロメートルについて、築堤工事(護岸工)を実施するというもので、総事業費40億円、工期は平成30年から49年までの20年間を見込んでます。また、計画堤防高が不足している箇所の築堤を行うとともに、堤防の安定を図るため鋼矢板基礎を設置。河道の流下能力を確保するため、一部で川床の掘削も行う予定となっています。

●栄町で寸断されたサイクリング道

ところで、銚子市から和歌山市まで太平洋沿い1,400キロメートルを走る「太平洋岸自転車道」の整備計画が進む他、JR千葉支社が自転車



県自転車道(点線が未整備区間)

ず持ち込める専用電車「B.B.BASE」の運行を始め

るなど、近年はサイクルツーリズムに着目した観光誘客が活発となっています。実は、この北総エリアは県内でも自転車道が重点的に整備されてきた地域。我孫子から佐原、東庄まで利根川に沿っての50キロメートル超(佐原我孫子自転車道・銚子小見川佐原自転車道)の他、栄町安食から千葉市内についても45キロメートル超の自転車道で結ばれています。しかし、栄町の長門川下流域(ふじみ橋～酒直水門付近)、つまりは前掲の長門川の護岸未整備区間については、自転車道の整備も中断されたまま。結果、千葉から我孫子、佐原までの自転車道の大半が整備されていながら、栄町内で寸断され、行き来できない状態でのいるのです。

●サイクルツーリズムで町おこし 関係団体と連携

県は長門川の護岸整備とともに、未開通区間である長門川下流域の自転車道の整備を進める方針です。サイクルツーリズムは、自転車愛好家のみならず、町おこしへの起爆剤として関係自治体も期待するところ。長門川沿川の自転車道早期開通のため、地元自治体や自転車愛好家団体等との連携を強めてまいります。